

地域課題解決に向けての 意見交換会報告書

—品川区議会と品川女子学院生徒—



令和2年11月19日（木）品川女子学院

議会報告会等準備会議

【開催経緯】

品川区議会では、「区民に開かれた議会」「区民に身近な議会」を目指す議会改革の一環として平成28年度より「地域課題解決に向けて」をテーマとし、年1回、品川区議会と品川女子学院の意見交換会を開催しています。

5回目となる今回も、11月19日に各クラスの生徒と品川区議会議員で意見交換を行いました。

【開催概要】

日 時：令和2年11月19日（木）16:00～17:30

会 場：品川女子学院

参 加 者：品川女子学院生徒（中学1年生）、教諭

出席議員（議会報告会等準備会議*所属品川区議会議員）

：こんの 孝子、石田 秀男、小芝 新、西村 直子、湯澤 一貴、
鈴木 博、高橋 伸明、松澤 和昌、新妻 さえ子、安藤 たい作、
西本 たか子、横山 由香理

テ ー マ：「地域課題解決に向けて」

※ 品川区議会では、平成29年5月より「議会報告会等準備会議」など4会議を立ち上げ、議会改革の取組みを継続しています。

【プログラム】

1. 開会あいさつ （議会報告会等準備会議リーダー こんの 孝子）
2. 課 題 報 告 （品川女子学院生徒）
3. 意 見 交 換
5つのグループに分かれ、生徒・議員間で意見交換を行いました。
4. 感 想 発 表
各グループ代表の生徒および議員が感想を発表しました。
5. 閉会あいさつ （議会報告会等準備会議サブリーダー 石田 秀男）

【意見交換の内容および担当議員】

- A組) はじめての満員電車 担当議員：こんのリーダー、湯澤議員、高橋（伸）議員
C組) あつまれ！勉強の森 担当議員：鈴木（博）議員、安藤議員
D組) 鍵はアナログ？それともデジタル？／鍵の紛失を防ごう！
担当議員：石田（秀）サブリーダー、西本議員
E組) 荷物警察～あなたの荷物を調査します～
担当議員：小芝議員、西村議員、新妻議員
F組) 大人も知らない自己紹介～君の名はなんて言わせない～
担当議員：松澤議員、横山議員



【課題報告の概要】

A組) はじめての満員電車

満員電車問題は私たちにとって身近な大問題です。6月に憧れの品女生活が始まり、それとともに初めての満員電車というものを経験し、とても不安に感じました。もみくちゃになるのも、新型コロナウイルスも怖いという不安だらけでした。

不安なら電車を利用しなければいいのですが、なぜ私たちは電車を利用するのか、クラスの皆で考え、アンケート、ディスカッションを行いました。その結果、電車は便利だけでなく、時間に正確、安い、早く目的地に到着するなど、ほかのものでは代用できない利点が多くあること、感染リスクがあっても乗らざるを得ないことが分かりました。サステナブル社会を実現するためにも電車を利用した通学・通勤はどうしても必要を感じました。

多くの人が利用する鉄道の問題への解決の糸口をつくりたいと思い、私たちは研究をスタートしました。

まず、原因を考え、満員電車を解消するための行政や鉄道会社の対策は不十分だと仮説を立てました。仮説の検証のために、東京都交通局やJR東日本の運転士さんに、満員電車対策や『満員電車がなくなる日』の疑問点について取材しました。また、緊急事態宣言前後の労働者の勤務状況を調査したところ、昔の満員電車では圧死する人まで出ていたということで、今は昔より改善されているのだと考えました。

行政も鉄道会社も対策を行ってきたのに、なぜ満員電車問題は解決しないのか。満員電車解消に向けて、私たち乗客自身の問題について考えました。緊急事態宣言後、テレワークが増えて一時満員電車ゼロになったのですが、6月以降は満員電車に戻りました。

そこで、クラスでディベートをして、嫌だなと思いながら満員電車を利用している乗客の気持ちを考えました。すると、感染リスクがあると感じる中で満員電車を利用する人が過半数でした。その理由を聞くと、消毒やマスクをしていれば感染しないのではないかと、満員電車は仕方がないと諦め、感染は怖いけれども、きっと大丈夫だと自分を安心させて乗車している、ということでした。満員電車問題を阻んでいたのは、この「仕方がない」「きっと大丈夫」という思考停止だということに気づきました。私たちは、この「仕方がない」という意識を改革することを目標に行動を起こしました。

まず、私たち自身が「仕方がない」という意識を変えて行動する。そこで、初めて満員電車に乗って怖かった実感を伝え、今後も継続して満員電車を解消するために頑張りたいというエールの気持ちを込めて、クラス全員で東京都へ嘆願書を書き、東京都交通局にしっかりとお願いしました。代表者の方に、テレワークやフレックスタイム制の利用をお願いするよう、「仕方がない」という思考停止が満員電車の解決を阻んでいるということを理解してもらうことを願って提案しました。また、新型コロナウイルスの電車内の感染について正しい情報でよりリスクの少ない通勤方法を考えてもらいます。自分は大丈夫だという根



拠のない自信では、不安は消せません。お医者様のご協力を得て、正しい情報を知るようにしました。

C組) あつまれ!勉強の森

私たちはより楽しく勉強する方法を調べました。楽しく勉強するためには、モチベーションを上げることが大切だと考えます。

モチベーションを上げるためには、自分に合った文房具を使うといいと考え、よりよい文房具を知るために、ゼブラ株式会社様にインタビューしました。お勧めの筆記用具は、「マイルドライナー」と「デルガード」です。

次にノートを取り方です。ノートの取り方は、余白を作る、色分けをする、図やイラストを描く等です。余白は後で補足するため、色分けや図・イラストも分かりやすくするためです。

授業ノートだけでは覚えられないという人には、まとめノートをお勧めします。分からない問題があったときは余白に解法を書いて後で見やすくなるようにする、図を描いて分かりやすくする、覚えられない単語とその使い方をまとめノートにまとめることが大事です。

品川女子学院の1年生にアンケートをしたところ、色分けをする、スペースを空ける、オレンジペンを使用するという結果でした。また、まとめノートを作っていない理由では、プリントにやっている、単語帳を作っている、長続きしない、作るだけで満足してしまうという回答を得られました。

授業の受け方について、授業中にやるべきこととして考えたのは、おうむ返し暗記法と、雑談を書き留めることです。おうむ返し暗記法は、先生が何かの単語を言ったら、それを心の中で繰り返すとその場ですぐ覚えられるというものです。また、雑談を書き留めることによって、そこから言葉を連想し、授業の再現ができると考えました。

以上から、私たちは、勉強のモチベーションを上げるために、目立ちやすい色の文房具を使うこと、ノートの取り方を変えることを提案します。



D組) 鍵はアナログ?それともデジタル?／鍵の紛失を防ごう!



私たちは、鍵はアナログがよいか、デジタルがよいかということについて調べ、理想の鍵について考えることを最終目標として研究を進めてきました。

なぜ鍵について調べようと思ったかというと、できるだけ身近な問題を解決したかったということ、また、ハッキングや空き巣の被害に遭うというニュースを目にし、鍵は、家を出るときやスマートフォンのロックを開けるときなど、あらゆる時に使用され、そ

の分、問題点も多くあると考えたからです。

7月までの仮説・調査結果では、理想の鍵の条件として、主に高齢者でも使いやすい利便性と複雑性が両立できる鍵であり、鍵やパスワードに対する危機意識を持つことが重要だと分かりました。また、より深く調べるため、アナログキーを調べる班と、デジタルキーを調べる班に分けて調査を進め、各班で実験を行いました。

次に、安全性と利便性を両立させたいと思いました。そこで、デジタルキーに詳しいトレンドマイクロ株式会社様に取材をしました。取材で得たことは、パスワード管理アプリを使うと、安全性と利便性を両立させられるということです。

最後に私たちは、「スマートロック」という商品を扱っている企業様に、自分たちで考えてきたことと、トレンドマイクロ株式会社様から頂いた意見を生かしたプレゼンを行いました。その後、「スマートロック」を基に今のデジタルキーはどのくらい進化しているのか、お話を伺いました。今後は2段階認証など、パスワードや鍵を幾つか掛け合わせて使うことも増えます。企業様がこれから作っていきたいと考えている鍵は、デジタル単体でも安心して使えて、性能のよいデジタルキーを作ることだそうです。

これらの調査を基に、アナログキーにもデジタルキーにもメリット・デメリットがあること、そのため、これからはどちらも併用することが重要だと分かりました。

これからの時代はデジタルキーが進化していくと考えられます。しかし、デジタルキーが誤作動を起こした場合のことを考えると、アナログキーも設置しておくといよいでしょう。中学生として、鍵の解決策を考えるのは難しく、具体的なアクションを考えづらかったのですが、現時点で考えられることを精一杯やりきりました。来年の文化祭の活動では、より深く研究して、実用的で世の中になくアイデアを提案していきたいと考えています。

E組) 荷物警察～あなたの荷物を調査します～

私たちは、通学時に荷物が重いと感じ、荷物を軽くすることはできないかと考えて、テーマにしました。

まず、学校内でアンケートを実施しました。その結果、97.6%の人が荷物が重いと感じているようです。また、荷物が重いと姿勢が悪くなるなど、悪影響があります。

そこで、3つの観点を軸として考えました。

1つ目は、荷物を軽くできないか、という観点を調べました。曜日班では、教科や曜日ごとの荷物の重さについて調べ、荷物を軽くするには、その週に何を持っていくか、しっかりと計画を立てていくという結論になりました。ロッカー班では、ロッカーに荷物をより多く収納するためにどうすればよいかを調べ、縦に収納することや収納グッズを使用することがいいと実験から分かりました。iPad班では、本来はiPadを使わない授業のときに、iPadを使って授業を受けることができるかという実験をしたところ、iPadに教科書をデータ化し、荷物をより軽くするという結論になりました。

2つ目は、荷物を軽く感じさせることはできないか、という観点を調べました。体感班では、主にリュックのひもの長さを変えたり、「チェストベルト」というグッズを使って実験



した結果、荷物が体に近いほうが軽く感じるということが分かりました。荷物がかさばる班では、学校の荷物の重さを量りました。かさばらないようにするには、ペンとコンパスが一緒になっている「ペンパス」や、コンパクト収納ができる弁当箱などがお勧めです。

3つ目の観点は、重い荷物を公共の施設で利用するとき、どうやって体の負担を減らすかということです。電車の網棚班では、荷物を軽くしたいのに網棚に置けないという問題を調べました。西武鉄道株式会社様では、日本人の体格に合わせて立ち座りしやすい高さに着目されているようで、これから網棚を活用しやすい電車が普及してほしいと思いました。邪魔にならない荷物の置き方班では、どのように荷物を置いたら人の邪魔にならないで済むかということ調べ、時と場合により、荷物の置き方を工夫することが大切だと分かりました。例えば、お店の中で荷物を置く場所がないときは、椅子にかけたり、自分と椅子の間に置いたりします。そのような工夫をすると、不快な気持ちにならないで過ごせます。つり革班では、荷物が重いのにつり革が届かない、つかみにくい人にお勧めのものをを見つけました。それは、「ふっく君」という商品で、「ふっく君」は、つり革に触れずにつり革を持てたり、身長が低い人でも簡単につり革をつかむことができる商品です。

まとめとして、歩くときや公共の機関を使うときは、背筋を伸ばすと荷物が軽く感じたり、荷物の中身がかさばらないように自分なりに工夫することが大事だと分かりました。まだ中学生なので、実際に本当に全く荷物を感じずに過ごすということは難しいかもしれないけれど、少しずつの工夫で少し荷物が軽くなるという結論に至りました。

F組) 大人も知らない自己紹介～君の名はなんて言わせない～



上手な自己紹介のやり方のポイントは、①自己紹介の内容、②自己紹介をするときの態度、③自己紹介を聞くときの3つがあります。

まず、自己紹介の内容の決め方には、最初に自分の長所を見つける方法、短所から長所に変えて見つける方法、身の周りの人に聞いて長所を見つける方法、そして、マインドマップで長所を見つける方法があります。

次に、自己紹介で笑いを取る方法です。①自己紹介の長所と短所とそれぞれに関連する言葉を書く。②共通する言葉を見つけ、長所から短所の順でつなげる。自分の特技から自分の失敗談を話すという、上げて落とす方法が一番簡単に笑いが取れます。ここでの注意点は、例えば「大会に出たことがある」は自慢になる可能性があること、あだ名の理由を明確にすること、自分が呼ばれてもいいあだ名を伝えることです。

ちょうどよい自己紹介の文章の長さは、1文を35文字以下で、自己紹介に10秒程度。句読点では、間を置いたほうがよく、間も思っている以上に空けたほうがいいです。子どもや高齢の方にはゆっくり話すようにするといいです。

自己紹介をするときの表情をよくする方法としては、表情筋を鍛えることが挙げられます。

自己紹介するときの態度ですが、恥ずかしいという人は、ワンセンテンスワンブロック法という、聞き手の座席を何ブロックかに分け、1文ごとに見るブロックを変えるという方法、印象を重視する人は、ジグザグ法という話しながら視線をジグザグ移動する方法が効果的で

す。

自己紹介するときの声の大きさやトーンは、高くて大きな声で自己紹介をするとよい印象になります。腹式呼吸をしながら自己紹介をするといいですし、早口言葉や母音法で滑舌を鍛えるといいです。

緊張しているときは、1対1で自己紹介をしていると思うといいです。また、事前に準備しておく、準備したという自信がつくので、うまく自己紹介をすることができます。

3つ目のポイント、自己紹介を聞くときは、一度にたくさんの人は覚えきれないので、相手の自己紹介を書き留めて、その紙を見ながら聞くといいです。後で見返すことができるので、その点も便利です。

こうした自己紹介作成のチェックリストを作って、これらの条件を満たすような自己紹介を作ってみると、いい自己紹介につながります。

これらのことを踏まえて、もう一度皆で自己紹介をしました。その結果、声が大きくなりはっきりとした声に変わっていた、目線を合わせるとこちらを向いて聞いてくれた、最初の自己紹介よりも聞きやすくなった、事前の準備をしっかりとしていたので、話す内容が覚えやすかった、印象に残りやすい、好印象になっていた、前よりも表情が明るくなった、全体的に聞きやすくなった、メモがあると覚えやすく、項目分けして書くと見やすかった、などの意見が出ました。

したがって、これらの方法は自己紹介を充実させるのに有効で、自己紹介のときに実践することで、自己紹介するときの悩みは解決されて、話し手も聞き手もストレスを感じずに友好的な関係を築くことにつながります。

【意見交換後の感想】

A組) はじめての満員電車

○品川女子学院生徒

北品川駅から品川駅の間は、品女生があまりにも多いし、それはある意味迷惑なのではないのかなと思いつつも、皆が「ごめんなさい」と思いながら乗っているよねとか、電車の問題について話し合いました。例えば、乗車の入り口のところに人が立っていて、そこで降りられるか降りられないかというところに人間性がかかっているとか、痴漢に疑われないようにずっと手を挙げて乗っていたとか、電車内の過ごし方の話もありました。都市郊外でも通勤しやすいところに皆が住んでいるから満員電車というものが発生してしまうけれど、それを今、リモートというものがあるのだからもう少し距離を遠くしてみてもいいのではないかと新しい意見も頂き、この学習を深められる機会となりました。

○湯澤議員

満員電車の問題から、電車のいろいろなことについてお話しさせていただきました。例えば、本数を増やすとか、ホームを長くすることは、お金がかかってしまうとか、そういうと



ころまでしっかりと気を使われていました。

乗る人間たちのマナーも大変重要であるということにも気づかせていただいて、私たちも生徒の皆さんから学ぶものがたくさんありましたし、また、私たちから提供できるものはこれからもしっかりと伝えていきたいと思えます。

C組) あつまれ! 勉強の森

○品川女子学院生徒

私たちが思いつかなかった視点を教えていただいたので、すごくよかったです。あとは、私は社会科が好きで、その視点で考えてプレゼンをしてしまったので、ほかの教科の暗記法ももう少し取り入れられたらよかったかなと思います。

○品川女子学院生徒

私の作った発表のデータが消えてしまったのですが、友達の発表を聞いたりスライドを見たりして発表することができました。ノートのまとめ方とか、「苦手な教科は好きになったら得意な教科になるから、好きになるためにいろいろなことを工夫しようね」という議員さんの話を聞いて、とてもいい機会になりました。

○安藤議員

どうしたら勉強のモチベーションを高められるかというテーマだったので、今の皆さんが直接感じている悩みというか、考えていることがよく分かって勉強になりました。



D組) 鍵はアナログ?それともデジタル? / 鍵の紛失を防ごう!



○品川女子学院生徒

今回、私たちはどうしたいかという簡単な結論を出せていなかったで、今後も振り返って考え続けることが大切だと思いました。

鍵については、まず鍵のセキュリティーを強化することと、鍵はそもそも盗難や空き巣被害を防止するために作られたものなので、安全な社会を追求することと、安全なセキュリティーを追求することの両立、これはなか

なかできないと思うのですが、両立をすることが大切だという結論に至りました。

全体を通しては、課題に対してどのようなアクションをすればいいのかが大切で、そういうことは正解がないわけで、10年後には違う意見が出ているかもしれない。そういうことを考えるには、きっかけを大切に、いろいろなことを吸収して考えられるように、考える幅というのを広げることが大切だという結論になりました。

ポイ捨てやごみ拾い、水素のことやテロ問題についても話し合うことができました。

○西本議員

本当にすばらしい発表、ご意見を頂いているなと思っています。今回の発表をきっかけに、

継続していろいろと考えていくということが続けていただければいいなと思いましたが、それぞれの将来の夢や、素晴らしいレポートやお気持ちを聞いて、皆さんがいるということで、これからの日本には希望が見えるなというふうに感じました。

今後はリスクマネジメントも、アナログということも当然必要です。利便性と安全性と、いろいろな境目をどのようにしていったらいいかというのが分かりにくい状況になってくるので、より柔軟な頭で対応していただきたいということ、思いやりを持っていろいろな人と話し合っていただければいいなと思っています。

E組) 荷物警察～あなたの荷物を調査します～

○品川女子学院生徒

デジタル化は昔よりは進んでいるけれども、ロッカーの活用をきちんとしてもまだ荷物が重いという問題が残っているというお話や、満員電車などの中でも荷物がかさばってしまって、学校に行きづらかったりするということから、網棚も可動式のようにできたらいいのではないかという話をいただきました。そして、少しでも荷物を減らしたいと思ってしまい、少し



の合間の時間も、これができるかもしれないと思って持って行こうと思っても、それを負担に思ってしまって、学習機会をなくしてしまうこともあるという新たな問題点も発見でき、貴重なお話を頂きました。

○西村議員

ずっと持っているものが重たいという通学の機会を経て、両方の参考書を見比べたいのだけれども、減らしてしまおうという思考になってしまうのはすごくもったいないので、国としても教科書をデジタル化していこうという動きにあるのだよというお話をさせていただきながら、満員電車に通っている方も多いので、もっともっと学習に集中して通学できる楽しい学校生活を送っていただけるように、私たちも頑張って働きかけていきたいなと改めて思いました。

F組) 大人も知らない自己紹介～君の名はなんて言わせない～



○品川女子学院生徒

議員さんたちの実際の経験について教えてもらい、それが面白く、楽しかったです。

○品川女子学院生徒

笑いを取る方法で、滑ってしまったときの対処法で、「誰も聞いていないかもしれないからいいや」と思うと、意外とできるようになるということで、自分もそう思えばいいのだと思いました。

○品川女子学院生徒

議員さんも、緊張していたり、人を覚えるときも顔の特徴で覚えたりとか、私たちと一緒になのだと共感できるところがあってよかったです。

○松澤議員

よくまとまっていて、とても勉強になりました。これから世の中に出るにつれて、自己紹介の場面はずっとついてきます。皆さんに教えてもらったことを心に留めて、私もこれからも頑張っていきたいと思います。

【今後に向けて】

当日は、参加した品川女子学院の生徒15名からタブレット端末を用いたプレゼンテーション形式で課題の報告を受け、地域課題に対してとても活発な意見交換を行うことができました。また、意見交換会后、生徒の皆さんへ実施したアンケートでは、たくさんの感想や質問をいただき、質問には別途回答しました。今回、意見交換を行った各課題について、さらに調査・研究が進められ、生徒の皆さんが地域ひいては社会に貢献できる人材として大きく成長されることを楽しみにしています。

品川区議会は、今回の意見交換会でいただいた、若い世代の方の貴重なご意見を真摯に受けとめ、こうした取組みを継続的に行い、引き続き区民に「開かれた議会」、「身近な議会」を目指して活動してまいります。